



くりしま

《本園の教育目標》

- 仲良くできる子ども
- 元気な子ども
- 心豊かな子ども
- 努力する子ども
- 体を鍛える子ども

《栗島幼稚園ホームページ》

栗島幼稚園

検索

『裏返るセミ 茂るイモ』

園長 矢田 泰久

夏休みが終わり、2学期になりました。気温もだんだんと下がり夕暮れも早まっています。にぎやかだったセミの音も収まり、仰向けに裏返ったセミを路上やベランダで見かけます。畑ではサツマイモのつるが伸び、葉が青々と生い茂っています。今、夏の終わりと始まった秋を同時に全身で感じ取ることができます。

さて、この夏お子さんたちはどんな体験を積まれたのでしょうか。ご家族でお出かけをして海や山、水族館や博物館などで楽しんだ方もいらっしゃることでしょう。猛暑に負けず屋外で虫取り水遊びなどいろんな遊びに興じた、屋内で涼をとりながらゲームや本読みなどに親しんだ、時には興味や好奇心をもってあるものやあることに没頭したなど……。

このような体験は子どもには大人とは異なり、すべてが新鮮ですべてが刺激的です。人格形成や能力開発における中核となります。これらから生み出され派生した感動や好奇心は、やがて知識や知恵を生み出す原動力となり、大きな成長の実を結びます。重要な宝物です。

他方、教職員にとっても夏は心身のリフレッシュだけでなく、職務に磨きをかけるよい機会です。研修等で研鑽を積み知識・技能を高めたり新しい発見や感性を醸成したりしました。必ずや本園の保育、子どもたちが主体的に考え判断し表現する力へ結び付くと確信します。幼児の心身の成長に役立つことにご期待ください。

ところでセミはなぜ仰向けに裏返るのか？こんな疑問を小学生の虫博士に聞いてみました。セミはお腹より背中の方が重く、また寿命が近くなると6本の足で幹や枝に捕まる力が衰えてくるからだそうです。ましてや、都会の建物の柱や壁はつるつるしてつかまりにくいです。人間も肩の荷を軽くしないと、しっかり強く羽ばたけませんね。子育ても子どもへの過度な規制や期待は子どもへの負荷(重荷)となりかねないことをわきまえ知ることが大切です。失敗も多かった者からの切なるお勧めです。

今サツマイモ畑の苗が夏の強い日差しをたくさん浴び、つるが伸び、葉が茂っています。お芋の状況は外からは見えませんが、土の中では着実に大きく膨らんでいることでしょう。植物にとって光と水と養分は不可欠です。このことを人間に当てはめてみますと、刺激的な体験の光、安心・安全の水、知識・技能といった養分というところでしょうか。

この2学期も実り多き歳時となりますよう保護者・地域関係者の皆様には本園へのご理解とご協力をお願い申し上げます。

<おしらせ>

- 7月さくらぐみ園児1名^{ひろのふうた}廣野楓太君が転出され、9月には同ぐみへ短期入園児^{しまここね}鷲心音さんが転入しました。それぞれ早く新しい生活になれますようお祈り申し上げます。
- 深澤礼子先生(ほしぐみ)は体調を崩され、10月末までお休みされます。一日も早い回復を祈ります。

<夏季保育 楽しい遊びの風景（ぶろっく、ぬりえ、ねんど、みず）>



「幼児教育・保育の無償化」の先にあること Q&A

矢田泰久

Q 保育料無償化は誰のため？何のため？

保護者の経済的な負担を軽減し、誰でも幼児教育を等しく受けられるようになります。子どもたちの未来を保障する手助けになります。

Q 無償化する背景はどこにあるの？

幼児期の教育を無償化にするに至った背景には、この時期への教育投資が経済的に効果的であるとの研究成果によります。

ノーベル経済学賞受賞のジェームズ・ジョセフ・ヘックマン氏は、長年の研究から「教育投資は幼児期に行うのが最も効果的である。」(『幼児教育の経済学』)ことを挙げました。

これにより、世界の経済先進諸国は幼児期の教育改革、教育の制度や内容、教員の資格や待遇の改善、研修の充実など、幼児教育の質の向上に着手しました。ただ、日本では主に保育料無償化だけを決めました。

Q 今、教育内容で重視することは？

6月号の園だよりでも載せさせていただきましたが、幼児期に「学びに向かう力・人間性等」の資質・能力の基礎づくりが求められています。自分から何かに取り組む、根気強くやり抜く、失敗から立ち直る、人と協力できる、違う価値観を受け止めるなど、感情や心の動きに関連する非認知能力と呼ばれる力を身に付けたり、高めたりすることに他ありません。

そのため、保護者・保育者は、質の良い遊びや体験活動の環境構成を行うとともに、子ども自身が無条件に愛されている、いつだって助けてくれるという信頼感と安心感を抱くよう「大丈夫だよ」と励まし続けること。不安そうなときはきちんと寄り添うこと。そんな関わりを心掛けましょう。

Q 無償化の先にある課題と解決策は何に？

保育料の無償化は、保護者に「利用しなくては損」との意識をもたせ、保育の需要を押し上げるでしょう。ただ、現状を踏まえると今以上に保育者の不足を招きかねず、その質の低下は免れません。

解決には、園はこれまで以上に創設者の理念に立ち返り、保護者・地域の方に認められ、評価されるよう園の魅力やブランドを強化することです。一方、保護者の方は足らなさや不満を漏らすだけでなく、少しでも質の向上が図れる工夫を園と一緒に考えて欲しいのです。ここに光明が見えます。